

それぞれの季節の風の中を、小さな旅をして、
あの日みつけた、ささいな想いが
しばらくたって、^{おもいで}忘れたところに、追憶めいた風景になる。

藤倉英幸

藤倉英幸作品受贈記念

藤倉英幸展

〔季節をたどって Part1〕

プレ展示：2018年2月10^(土)日 - 2月25^(日)日

本展示：2018年3月24^(土)日 - 7月22^(日)日

JR北海道車内誌「The JR Hokkaido」表紙画を20年以上にわたって担当するほか、六花亭などの商品パッケージにも作品が用いられ、その画風が多くの人に親しまれるイラストレーター・藤倉英幸。藤倉は1980年代後半から、北海道の風景が持つ四季折々の魅力や空気感を洋紙を用いた貼り絵作品で情感豊かに表現し、見る者を魅了してきました。

有島記念館では、2017年に切り絵、貼り絵、アクリル画、ポスターなどの作品や資料など約1万2千点の寄贈を作家から受けて、整理作業を進めています。

2018年2月からの1年間は「藤倉英幸作品受贈記念展」として、北海道の四季を作品でたどる3回の展覧会を開催します。今回の「プレ展示」(2018年2月)と「第1期展」(3月から7月)では、春から初夏を描いた風景作品を紹介するほか、第1期では近年の作品を追加して展示します。「第2期展」(7月から10月)では夏から秋にかけての作品を、「冬の藤倉英幸展」(18年12月から19年3月)では冬から春にかけての作品を紹介します。藤倉が織りなす北海道の四季折々の風景をお楽しみください。

《有島に吹く風》2012年

作家略歴

1948年、北海道後志管内島野村(現・岩内町)生まれ。高校時代よりグラフィックデザイン、イラストレーションに興味を持ち、会社勤務のかたわら独修する。印刷会社、広告代理店を経て、74年にイラストレーターとして独立し、ポスター、パッケージ、装丁など商業デザインを幅広く手がける。80年代に入ると、北海道の風景や人々の生活に目を向けた切り絵作品を発表。80年代後半からは本格的に貼り絵による風景画を描きはじめ、自身のライフワークとする。その作品は各地の美術館での展覧会や個展のほか、1992年からは現在まで続くJR北海道車内誌「THE JR Hokkaido」の表紙画などで広く親しまれている。65歳の節目には画集『静かな風を聴きながら』(2013年・共同文化社)を刊行した。このほか、『藤倉英幸作品集 北を旅する人へ』(1993年・あすか書房)、『四季彩紀行 HOKKAIDO』(1997年・北海道新聞社)、『色彩豊かな洋紙を使って はり絵で描く風景たち』(2004年・日貿出版社)などがある。



《春の丘》1992年



《美瑛まで》2016年



関連イベント

受贈記念ギャラリートーク 2月10日(土) 14:00より

藤倉英幸さんをお招きして、展示作品や各地取材の思い出などをお話し頂きます。
この他にも関連普及事業を開催します。詳細は当館ホームページなどでご確認ください。

〔交通アクセス〕

自家用車 ▶ 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
J R ▶ ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km.)、タクシー5分
バ ス ▶ 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

〔駐車場〕

自家用車用約30台・大型バス用約15台完備

ニセコ町・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 Tel 0136-44-3245